

クロルプロマジン塩酸塩注射液使用について

適応外使用する医薬品等の名称	薬剤名：コントミン筋注 一般名：クロルプロマジン塩酸塩注射液
本医療の対象となる方	対象：内服不可のせん妄患者 実施場所：外来、注射室、各病棟
実施期間	2024年1月～
概要	<p>① せん妄に対する投与</p> <p>【添付文書に記載された使用方法】</p> <p>効能・効果：統合失調症、躁病、神経症における不安・緊張・抑うつ、恶心・嘔吐、吃逆、破傷風に伴う痙攣、麻酔前投薬、人工冬眠、傾眠・鎮静・鎮痛剤の効力増強</p> <p>【適応外となる使用方法】</p> <p>せん妄に対して投与</p> <p>【適応外使用する理由・根拠】</p> <p>「苦痛緩和のための鎮静に関するガイドライン」にはクロルプロマジンの利点として「せん妄症状の緩和」と記載されている。</p> <p>【想定される不利益】</p> <p>・薬剤の副作用等は筋注と同等と考えられる。</p>
	<p>② 点滴静注による投与</p> <p>【添付文書に記載された使用方法】</p> <p>1回10～50mgを筋肉内に緩徐に注射する</p> <p>【適応外となる使用方法】</p> <p>生理食塩水・ブドウ糖に混注し点滴静注する。</p> <p>【適応外使用する理由・根拠】</p> <p>「苦痛緩和のための鎮静に関するガイドライン」において、クロルプロマジンは「5～12.5mgを0.5～1時間で緩徐に点滴静注または、5～12.5mgを筋肉内注射」と記載されている。</p> <p>同成分のウインタミン注（現在は販売終了）が静注・筋注で適応があった。こちらとコントミン注で異なる点は、コントミン注には無痛化剤として硫酸Mg、調整剤としてブドウ糖が配合されているが、これらの2成分は静脈投与するにあたり、特に問題となる成分ではないと考えられる。</p> <p>【想定される不利益】</p> <p>点滴静注した文献では、配合変化や刺入部の異常などを含む副作用などについての報告は無い。</p>